

# 音声から映像＋音声への試み —iPad 活用のキャンパス取材型プレゼンテーション—

近藤 良子

## 1. はじめに：「音声」から「映像＋音声」への移行

英語教育において「音声」が扱われるようになって久しい。インプットではリーディング力やリスニング力を強化するための e-learning システム<sup>1</sup>、アウトプットでは学習者のシャドーイング音声をオンラインで録音・再生できる Moodle モジュール<sup>2</sup> など幅広い方法がある。いずれも「音声」に関わる内容で、今後もこの流れは引き継がれると思われる。本稿では筆者が 2014 年度から英語の授業で始めた iPad をアウトプットで使用したもので、「音声」から「映像＋音声」への移行をめざす活動である。

以前から、人前で行われるプレゼンテーションは日本人学生が敬遠しがちな学習活動である。1 回限りの評価で決まる発表をめざし、英文原稿や PowerPoint ファイルの作成に戸惑う。さらに英文原稿の丸暗記に多くの時間を費やす。緊張した不自然なプレゼンテーションはこのような経緯で繰り返されてきた。学生が敬遠する所以である。

そこでこのような問題点を回避するとともに本格的な発表への導入として、「iPad 活用のキャンパス取材型プレゼンテーション」を試みた。学生が iPad を使用し、キャンパス内で選んだ場所を英語で説明しながら撮影する。その音声付動画をネットワーク上で共有し、相互視聴や自己評価を繰り返す方法である。iPad がモバイルデバイスで教室の外に出られる事、また撮影した音声付動画を学習管理システム（LMS）の Moodle に直接アップロードできる環境

---

1 ALC NetAcademy：ネット環境で使用するネットワーク型英語学習システム。学習者は各自コンピュータを利用して、WWW ブラウザで英語の学習を行う。

2 熊井 & Daniels (2013) 参照。

(VideoBoard)<sup>3</sup>を使用した。身近なキャンパス内の取材であるため、学生がスピーキングに対する不安をあまり感じず主体的に活動する動機づけになった。その結果として、従来その場限りの評価であった学生の output を、より客観的な視点から納得のいくまで確認し、低いハードルから「改善」していけるようになった。

## 2. 年間授業計画の中での位置づけ

当該授業は英語でのプレゼンテーションスキルの「改善」を目的とするため、以下 1) 2) 3) の段階でそれぞれのステップアップを図る。標題の授業内容は以下年間授業計画の中で、第1学期 1)「iPad 活用のキャンパス取材型プレゼンテーション」の部分にあたり、導入の役割を果たす。

### 第1学期

#### 1) iPad 活用のキャンパス取材型プレゼンテーション

導入：iPad で撮影しながら英語で取材できる場所を、キャンパス内で数か所選ぶ。学習院大学のホームページで検索し現場を確認する。取材する場所を1か所に絞り込み英文原稿を作成する。その際、英語版のホームページ、あるいは外国人向けのパンフレットを参照しながら自分の英語で書く。各現場で取材撮影を行い、動画を撮影後圧縮する。VideoBoard を使って Moodle サーバーの授業ページに、音声付動画を2回アップロードする（図1）。1つの動画の容量上限は50MBである。視聴する際、手早く操作できるようクラスの動画を4分割してアップロードさせた。（トピックは話題別にアップロードするための区切りである。学生に指示する際「トピック3の①」などと視聴する映像を特定できる。）

TAKE1 のアウトプットをクラス全体で視聴し（図2）、改善点をディスカッションする。各自どこをどう改善するか具体的に記入したチェックシートを提出する。翌週 TAKE2 のアウトプットをクラス全体で視聴し、「改善」できたかを確認する。学生（発表者）は自身が撮影しているので映像内に登場しな

3 熊井（2014）、熊井 & Daniels（2015）参照。



図1 PC上のVideoBoardの画面

い。英文は原稿を音読してもよいことにした。

## 2) iPadで撮影した静止画使用のPowerPointプレゼンテーション

ステップアップ1：iPadで撮影した同じ取材現場の静止画の中から発表に使える写真を選び、インパクトのあるPowerPointファイルを作成する。1)の英文原稿をほぼそのまま使用する。学生が発表している様子を教員がiPadで撮影する。発表した学生が動画を圧縮し、VideoBoardを使ってMoodleサーバーの授業ページに2回アップロードする。TAKE1のアウトプットをクラス全体で視聴し（図3）、改善点をディスカッションする。各自どこをどう改善するかを具体的に記入したチェックシートを提出する。翌週TAKE2のアウ

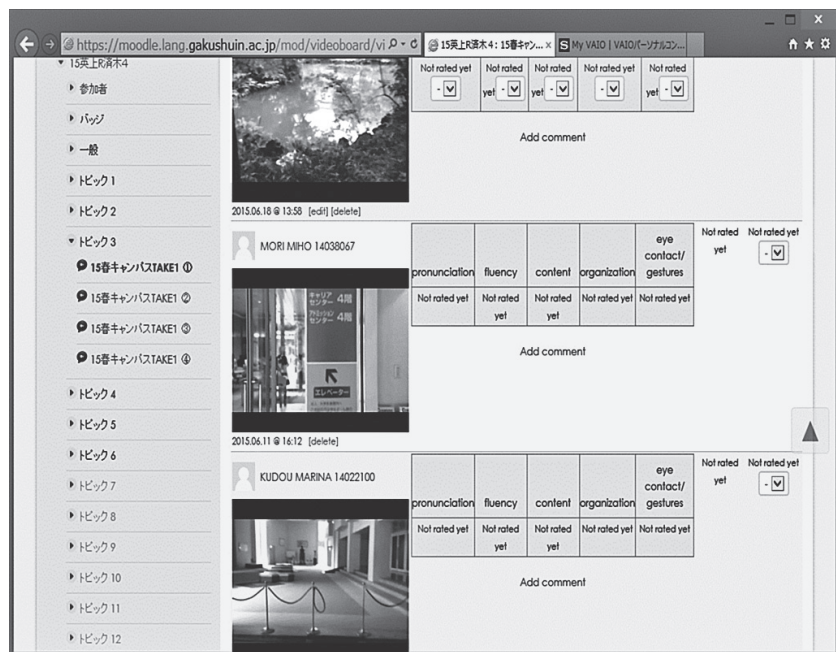


図2 Moodle上の動画および評価ページ例

トポットをクラス全体で視聴し、「改善」できたかを確認する。この活動では教員が撮影したため、被写体である学生（発表者）が映像内に登場する。ここでは英文の原稿を音読しないことにした。

## 第2学期

### 3) One-Sided Argument の PowerPoint プレゼンテーション

ステップアップ2：第1学期で取材=Explanationの発表を習得した。第2学期ではテーマを自由に選び、One-Sided Argument=to argue in support of an issueの発表をめざす。構成は教員が指定し、① Background Information, ② Thesis Statement, ③ Reasons, ④ Support, ⑤ Conclusion, ⑥ Recommendationsとする。学生には説明する事と意見を述べる事の違いを周

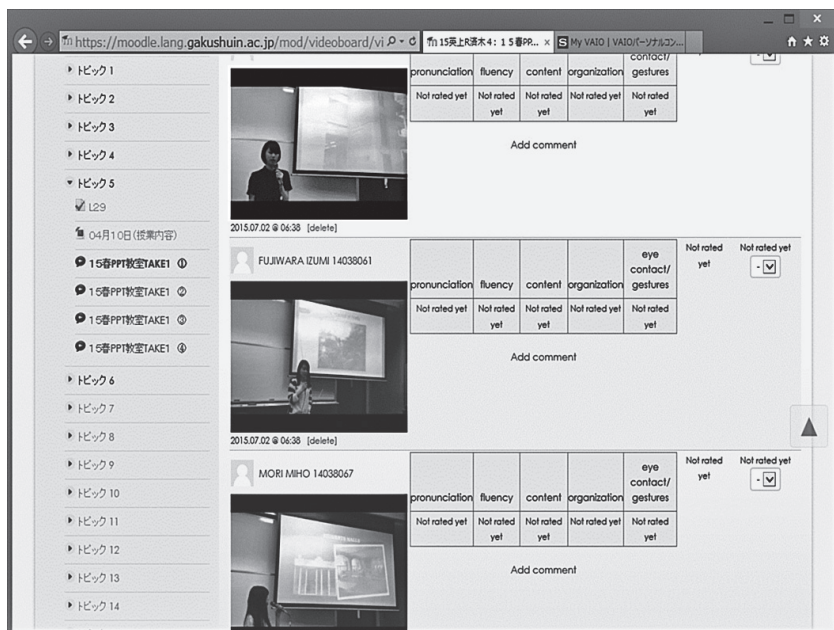


図3 iPadで撮影した静止画使用のPowerPoint プレゼンテーション

知徹底させる。学生が発表している様子をiPadで撮影する。発表した学生が動画を圧縮し、VideoBoardを使ってMoodleサーバーの授業活用ページに2回アップロードする。TAKE1のアウトプットをクラス全体で視聴し、改善点をディスカッションする。各自どこをどう改善するか具体的に記入したチェックシートを提出する。翌週TAKE2のアウトプットをクラス全体で視聴し、「改善」できたかを確認する。

### 3. 方法：iPad 活用のキャンパス取材型プレゼンテーション

担当の授業は選択科目である。1年生から4年生まで全学部の学生が履修できるため、学生間の英語力の差がある。また抜きん出て英語のできる学生はいない。プレゼンテーション原稿の英作文（情報発信）から始めると、学生によ

って是对应できなくなる。そこで、以下、情報入手・情報処理・情報発信の段階を追って授業を進めた。

## 1) 情報入手

この段階での目的は、学会や企業の現場で説得力を持ちにくい和文英訳・和製英語から離れ、実際に使われている current English にできるだけ多く触れることにある。学習院大学のホームページ（英語版）などを検索し、取材したい場所を決める。決めた場所について、どのような英語表現が使われているかよく読む。自分で使える表現・使いたい表現を探す。日本語の同ホームページは必ずしも内容が一致しないため、電子辞書をひくなどして自力で読解せざるを得ない。翻訳サイトを使っても、多くの場合概要が掴めるかどうかのレベル以下である事に気付く。最終的には自分で発表するため、的確に意味を把握する必要がある。学生にとって、調べているキャンパス内の情報が身近であることが有利に働く。その結果、学生は英文を書くより読むことに時間を使う。

## 2) 情報処理

使いたい英語表現を、自分の英語に直す。以下大学図書館の例である。

大学ホームページ（英語版）の表現：

To find the required documents from among the vast number of materials, users of the University Library utilize networked computer terminals. Using an Internet browser, they can retrieve information from the library's database wherever they are, regardless of whether they are within or outside the university, on a 24-hour basis.

学生が直した英語表現：

If you want to find books, you can utilize networked computer terminals and use an Internet browser. You will be able to get information from the library's database on a 24-hour basis.

ホームページの英文そのものが適切でない場合もある。また著作権の問

題があるので、どのホームページの英文を参照したか出典を明らかにした上で作業を進めた。Spoken English では授業中耳にした生きた英語が学生の英語力を向上させる。Written English でも単なるコピー＆ペーストで英文を引用するのではなく、自身が考えた脈絡の中で、自身が主導権を握って current English を活用できないだろうか。和文英訳に終始する英作文から脱却できればと考える。

### 3) 情報発信

学内取材撮影は 10 台の iPad を使い回し、キャンパス内各所で 1 人ずつ行った。取材映像は 1 分強までと指示したが、TAKE2 は約 2 分かった。撮影＋アップロードした TAKE1 をクラス全体で視聴し改善点をディスカッションした。翌週、撮影＋アップロードした TAKE2 をクラス全体で視聴し、「改善」できたかを確認した。TAKE1 の peer evaluation の結果、ほとんどの学生が英文を書き変えていた。

取材型であってもプレゼンテーションである。現場には存在しないが、映像を視聴するであろう「audience」を念頭に置いて、Have you ever visited the University Library? Don't you want to see the inside of the library? Come with me! Check it out by yourselves! など呼びかける表現を意識して使用している。発表している学生自身が iPad で撮影しているため、本人は映像に登場しない。以下学生（2 年生）が大学図書館について取材した原稿である。

#### TAKE1 単語数 67

Hello, I'm XX XX. Have you ever visited the university's library? The University Library is located to the east of the Mejiro Campus. There are about 480,000 books stored. To enter the library, users must have a student identification card as same as when you exit. It opens from 8:50 a.m. to 8:00 p.m. on weekdays and on Saturday it opens from 8:50 a.m. to 6:00 p.m.



TAKE2 単語数 185

Hello, I'm xx xx. Have you ever visited the University Library? The University Library is located to the east of the Mejiro Campus. If you follow the tree-lined path running from the main gate, you will see the library building to your left.

If you want to find books, you can utilize networked computer terminals and use an Internet browser. You will be able to get information from the library's database on a 24-hour basis. The University Library stores about 480,000 books.

To enter the library, we must have a student identification card. Touch the card on the machine at the entrance, then the gate will open automatically. Leaving the library, we need a student identification card, too. Touch the card on the machine at the exit, then the gate will open automatically. It opens from 8:50 a.m. to 9:00 p.m. on weekdays and on Saturday it opens from 8:50 a.m. to 6:00 p.m.

Don't you want to see the inside of the library? Come with me!

.....

Now you see how nice place it is. Check it out by yourselves!

課題を残した。まだ修正すべき箇所、表現を変えるべき箇所を多く残す英文である。卒業後学生が発信する英文には正誤のチェックだけでなく、競合に耐える説得力が要求される。文章が稚拙であったり、和文英訳のみに頼り論旨があいまいになれば、その内容までも劣位に評価される。今後も授業での指導方法に改善を試みたい。



## 4. 結果

### 1) 取材現場

学習院大学ホームページなどで参考になる英文資料があるか、天候に左右されず授業時間内での撮影が可能かなどの条件を考慮に入れて、選ばれた取材現場は以下のとおりである。図書館、計算機センター（情報処理に関わる教育を行うための研究施設）、国際交流センター（本学学生の海外留学および外国人留学生の受入支援など）、東別館（全寮制であった学習院が1913年に建てた皇族の方々の寮）、学習院創立百周年記念会館（大小ホール、常磐会事務室など）、SUBWAY（サンドイッチチェーン店）、北1号館ピロティ（学生生活のための情報掲示板）、血洗いの池（堀江安兵衛が刀の血を洗った池）、西5号館（学生ホールとコーヒーショップ・就職相談室など）、保健センター（大学内での怪我・病気、健康診断に関わる業務）、史料館（学習院史料の収蔵、研究、整理、保存と公開）。

図書館や計算機センターは私語厳禁である。外観を見せながら英語で説明し、映像のみで施設内部に進入するなど、モバイルデバイスならではの工夫が見られた。またセブンイレブンなど撮影禁止の場所がある事を学んだ。史料館では英文のパンフレットを発見し、原稿作成の際に参照できた。人通りが多いと撮影できない場所があったり風切音が強く自分の英語がよく聞こえない場合があった。いずれも学生が教室を出て取材現場で気付いたことである。

### 2) 動機付け

ディスカッションの結果、動機付けにつながる回答を得た。

- ・教室の外に出て英語の授業ができた。自由な活動ができてよかった。
- ・知らないことが以外に多く面白かった。
- ・モバイルで動画を撮影してみたかった。
- ・自分が映らないので積極的になった。
- ・英文を暗記しなくてもいいのでできると思った。
- ・同じ撮影現場を選んだ人が他にもいて心配したが、自分だけのプレゼンテーションができた。発表（情報発信）は工夫できる。

- ・頭で考えてもだめだと思う。TAKE1を見れば、どこを直せばいい分かる。
- ・2回発表するから大丈夫だと思った。
- ・みんな知っている場所なので面白かった。

大上段に構えた従来通りのプレゼンテーションとは学生の反応が大きく異なった。トップダウンで教員から指示しなくても、学生自身が取材現場で学び、英文の長さ・英語で原稿を読むスピード・声の大きさと抑揚・英語の表現・撮影方法を提案してくる。本来プレゼンテーションは主体的なもので、発表者の提案に基づいて行われるものではあるが、今回の活動における身近な現場を取材する低いハードルは、学生の興味を引き出す動機付けになったと考えられる。

### 3) 導入でハードルを低くした経緯

学生には説明しないが、教員としてはプレゼンテーション評価の際3つの側面を念頭に置いている。① Speech Message, ② Visual Message, ③ Physical Message である。英語そのものの評価 Speech Message では、わかりやすい英語 (Plain English)・問 い か け (Rhetorical Questions)・論 理 的 な 展 開 (Logical)・面 白 い 内 容 (Interesting) が問われる。視 覚 的 効 果 Visual Message では、キ ー ワ ー ド と 数 字 (Key Words/Numbers)・列 挙 (Enumeration)・画 像 (Photos/Illustrations)・図 表 と グ ラ フ (Charts/Graphs) が問われる。身 体 的 メ ャ ッ セ ー ジ Physical Message のポ イ ン ト は 声 の 抑 揚 (Voice Inflection)・ア イ コ ン タ ク ト (Eye Contact)・手 と ポ イ ン タ ー (Hands/Pointer)・姿 勢 (Posture) である。

ただこれだけ多くの評価ポイントを授業の目標にしてしまうと、論点の絞れない詳細にこだわり過ぎた発表になる恐れがある。トップダウンで指示される高いハードルは学生の意欲にブレーキをかけることも考えられる。そこで導入としての「iPad 活用のキャンパス取材型プレゼンテーション」では、Speech Message と Visual Message のみをかなり簡略化した内容で目標とした。つまり Speech Message では英文原稿の構成を単純な Introduction, Main Body, Recommendation に抑え、Visual Message では iPad で撮影した動画のみで発

表できるよう授業を進め、発表時間も1分強までと決めた。分かりやすい単語と短い文章を使い、手際よく論理的に面白い内容を工夫せざるを得ないからである。また audience と直接顔を合わせていないので、問いかけ（Rhetorical Questions）に取って代わり Recommendation で発表を終了させた。このような経緯で導入のハードルを低くした。

#### 4) 改善点

前述のようにプレゼンテーションの動画投稿は、TAKE1 と TAKE2（翌週）の2回行った。授業中個々のコンピュータで学生自身が納得のいくまで動画再生を繰り返した。自己評価＋改善のためである。その後スクリーンを使いクラス内の相互評価（peer evaluation）をディスカッション形式で行った。その結果、英語そのものについては、次のような改善すべき点が明らかになった。

##### ① pronunciation :

緊張して発音まで気がまわらなかった。間違った発音が幾つかあったので、電子辞書で確認した。日本人独特の発音だった。声が小さい。日常よりはっきり発音した方がインパクトがある。外国人らしい発音にしたら不自然な発音になった。どの単語の発音がおかしいか分かった。

##### ② fluency :

間違えないよう発音するとイントネーションがおかしくなる。緊張して早口になったのでよく聞き取れなかった。単語の拾い読みだった。言い直しがかなりあった。暗記するぐらい読みの練習をしないと不自然だ。棒読みだった。一語一語をはっきり発音しすぎて全体の流れがたどたどしくなった。抑揚が全くなかった。英文は区切って読んだ方がいい。

##### ③ content :

みんなの知っている場所でもみんなの知らない内容を取材した方が面白い。多くの場所を説明しようとする分、分かりにくくなるし時間切れになる。施設全体を説明しないで発表したい所を絞った方がいい。発表してみたら思ったより内容が面白くなかった。内容変更した・キャンパス内だからすぐ取材場所を変えられた。

④ organization :

原稿の分量が多すぎたので Main Body の部分を減らした。Introduction が長すぎた・1 センテンスでいいと思う。Introduction を問いかけにしたら見ている人の関心を引くのでいいと思った。自分から見えなくても映像を見る人がいるので最期は Conclusion にしないで Recommendation の方がいい。Introduction と Recommendation が決まらないと内容が良くてもつまらない。順序立てて説明しないと内容が伝わらない。

教員の5点満点評価でも TAKE1 と TAKE2 の平均値をとると以下のように改善がみられた。

- ① pronunciation : TAKE1=3.0, TAKE2=4.3
- ② fluency : TAKE1=2.4, TAKE2=4.6
- ③ content : TAKE1=3.8 TAKE2=4.4
- ④ organization : TAKE1=3.6 TAKE2=4.3

## 5) VideoBoard

プレゼンテーションの授業で「映像」が有効な役割を果たすであろう事は以前から承知していた。他の英語教育の現場に比べ、Visual Message と Physical Message の占める割合が大きいからである。以前このような活動を授業で行った際には重い脚立とビデオカメラを教室に持ち込み、発表する学生に照明を当てて撮影した。Windows の標準的なビデオファイルを扱う形式は、非常に容量の大きい Audio Video Interleave (拡張子.avi) であったため、編集する際どの程度画質を落とすか、どの形式で書き出せば PowerPoint に貼れるかなど解決すべき問題が山積した。さらに新しい機能が開発されるたびにその操作方法が変わった。そのため、学生が「映像」を扱うのは無理だと考えていた。これは英語の授業である。肝心の Speech Message をおろそかにしてはならない。

ところが、VideoBoard モジュールが、学習管理システム (LMS) の Moodle に組み込まれる事によって事態は一転した。学生がモバイルデバイス

で撮影し、その動画をネットワーク上で共有することによって、相互視聴や評価が可能になった。カメラ機能の向上により、最近の動画は容量が大きくなるため、無料のアプリ（Video Compressor）を使い、予め動画を圧縮しておくことでアップロードにかかる時間が短縮できた。

学生は動画を書き出す形式や画素数の知識なしで簡単に操作できる。以下 VideoBoard を使った授業に関するアンケートの結果である。2014 年 12 月にオンラインでアンケートを実施した。

Question 1：動画投稿システムの VideoBoard を使う事で、授業に熱心に参加できた。

全くそのとおりだと思う＋どちらかといえばそう思う＝80%

Question 2：VideoBoard を使って楽しかった。

全くそのとおりだと思う＋どちらかといえばそう思う＝80%

Question 3：VideoBoard を今後も使いたい。

全くそのとおりだと思う＋どちらかといえばそう思う＝60%

Question 4：英語の力がこの授業を受けて伸びたと思う。

全くそのとおりだと思う＋どちらかといえばそう思う＝80%

Question 5：英語を聞いたり声に出して読むことに対する抵抗感がやわらいだ。

全くそのとおりだと思う＋どちらかといえばそう思う＝100%

Question 6：VideoBoard のよいところはどんなところですか。具体的に書いて下さい。

- ・アップロードの簡単さ。アイパッドからでも簡単にアップロードできる。
- ・映像や音声のみならず、個人のセンスを窺い知る事ができる。
- ・自分のプレゼンを録画しておけば、客観的に見ることができて、発音や話すスピードなど今後の対策に活かすことができるという点。
- ・自分の発表を第3者の目線から見ることができる。
- ・英語を使って相手に何かを映像とともに説明するのに、どうしたら伝わりやすいかをより考える機会になる。ただ教科書を使うだけの勉強ではない

ので、いつもより自分で作った英文や英語のフレーズなどを覚えやすい気がする。

Question 7: VideoBoard で改善してほしいことはなんですか。具体的に書いて下さい。

- ・特になし。
- ・アップロードしてから、視聴できるまで、時間がかかる事。
- ・ビデオをアップする方法が最初は少し複雑に感じた。
- ・特にありません。
- ・特になし。

Question 8: 授業で VideoBoard を使った結果、あなたの英語力に関してどのような影響があったと思いますか。具体的に書いて下さい。

- ・もっと、映像を使って発表する形の授業が増えると楽しいと思うほど、英語を勉強することへの意欲が増した。文法力を高めたいとも思うきっかけになった。
- ・発表力が上がった。発表の構成を考えるにあたって英語の文を考える力がついた。
- ・自分の英語を映像として客観的に視聴できたこと。自分の改善点が具体的に分かった。
- ・英語の発信力が増したと思います。
- ・録画した映像を見て、自分の想像していた英語の話し方と実際の差異に気付くことができた。よりはっきりと話すことを意識できるようになった。

Question 9: 今後は VideoBoard を使ってどのような動画を投稿したいですか。具体的に書いて下さい。

- ・さらに長いような難しい発表に挑戦してみたい。
- ・個人ではなくグループのプレゼン。
- ・自分の好きな映画や本を英語で紹介する動画。
- ・芸術性に富んだものを投稿したいです。淡々としたものではなくて、見ている人を楽しませるような自由度の高い「作品」を作りたいです。

面白いと思います。

- ・ 英語を使った、誰かへのインタビュー動画や取材動画。自身の積極性・行動力があると思われるため。

## 5. まとめ：「語学発信力の可視化」から見た展望

「Question 8：授業で VideoBoard を使った結果、あなたの英語力に関してどのような影響があったと思いますか。具体的に書いて下さい。」との問いに「英語で話すことを意識できるようになった。英語を勉強することへの意欲が増した。発表の構成を考えるにあたって英語の文を考える力がついた。自分の英語を映像として客観的に視聴できた。録画した映像を見て、自分の想像していた英語の話し方と実際との差異に気付いた。自分の英語の改善点が具体的に分かった。英語の発信力が増した。」との回答を得たことに注目している。本来英語は「音声」であって「映像」ではない。英語を可視化する事で英語力が向上したと学生自身が認識している。動画を撮影し共有したプレゼンテーションならではの結果である。

語学発信力の可視化を通して具体的な「改善」が見込めるならば、次の段階へステップアップできる。従来、大学教育でよく扱われるプレゼンテーションの内容は、自己紹介＋自己アピール・趣味の紹介・クラブ活動の紹介・キャンパス紹介・日本文化の紹介・休暇の過ごし方など説明するトピックが多かった。社会のグローバル化に伴い、海外のみならず国内においても英語で情報発信する機会が多くなっている。このような局面で要求される英語教育には argument への方向性を持たせたい。説明する事と意見を述べる事の違いを理解し、責任をもって自身の考えを主張できる英語力を育成できればと考える。今後はその第一歩として One-Sided Argument = to argue in support of an issue のさらなる充実を計画している。構成は教員が指定し、① Background Information, ② Thesis Statement, ③ Reasons, ④ Support, ⑤ Conclusion, ⑥ Recommendations とする。特に④ Support については数値を伴うデータ（グラフ・図表）の扱い方に力を入れ、より説得力のある情報発信をめざしたい。企業・学会での即戦力につながる英語へのステップアップを図り、学生のニー



ズを逆に授業から提案できれば幸いである。

本研究は平成26年度学習院大学外国語教育研究センター研究プロジェクト（研究代表者：熊井信弘）の成果をまとめたものであることを付記する。

### 参考文献

- Daniels, P. (2012). Technically Speaking: Moodle, mobile apps and mobile content, *The JALTCALL Journal*, 8 (1), 33-43.
- 熊井信弘 & Daniels, P. (2013). モバイル・デバイスを利用したシャドーイング練習のための Moodle モジュールの開発とその活用, 学習院大学外国語教育研究センター紀要『言語・文化・社会』11, 115-130.
- 熊井信弘 (2014). Capture, Upload, and Share—タブレットで記録した活動をネット上で共有・評価するための Moodle 用モジュールの活用—『最新 ICT を活用した私の外国語授業』丸善プラネット, 53-62.
- 熊井信弘 & Daniels, P. (2015). 効果的なアウトプット活動を行うためのモバイルデバイス活用法研究—iPad と Moodle の連携—, 学習院大学外国語教育研究センター紀要『言語・文化・社会』13, 91-99.
- Matsuoka, Tachino, and Miyake (2014). *Presentations to Go*, Cengage Learning, 155.

# One-Minute Presentations on Our Campus Using iPads —Student activities using iPads via VideoBoard module in Moodle environment—

Yoshiko Kondo

The use of mobile technology in language classrooms, though not a new phenomenon, is still in its infancy. Whether it be a tablet device or a smartphone, it is true that both teachers and students alike hold a powerful tool that can be used in a new technologically assisted language-learning environment. In fact, there is a growing trend to utilize it in many ways for foreign language development.

This paper reports on activities utilizing iPads in which students used them to make presentations on campus. After researching facilities and places of interest on campus, such as the University Library, Auditorium, Computer Center, cafés, etc., students gave presentations on them in English. Students took videos of the presentations and then uploaded and shared them via a Moodle module called “VideoBoard.” Researching familiar places and presenting about them in English encouraged them to give presentations with less anxiety and uneasiness. After the presentation videos were uploaded on Moodle, online peer evaluation as well as instructor evaluation in terms of pronunciation, fluency, content, and organization took place. This evaluation process helped students reflect on their output skills and find common errors made by many presenters.

Good presentation skills are key to a successful career in academia or business. It is hoped that these activities using iPads can provide students whose first language is not English with a framework to help them plan, prepare and practice presentations in international settings.